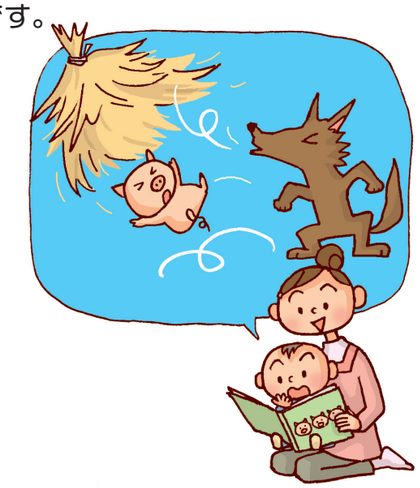
読み聞かせの大切さ

子どもは、絵本などのおはなしを聞くことが大好きです。
物語の世界にひたる体験はこころを育てます。



物語による体験が想像力を育てます

子どもが物語を聞いているときは、登場人物になりきって、想像の世界を自由に楽しみます。

登場人物のうれしさや悲しさ、痛みなど、さまざまな気持ちにふれることで、他人の感情や思いを知ることができます。

物語の中で、いろいろな世界を体験することにより、想像力などを身につけていきます。

耳からおはなしを楽しむ

子どもは、ことばを耳で覚えます。耳からどんどん新しいことばを吸収していきます。

ことばを覚えるとともに、耳から聞いて具体的なものや場面などのイメージを持ったり、さまざまな気持ちを感じたりすることが大切です。

だんだん絵本の世界を
楽しめるように…

文字が読めることと本を読めることは別です

子どもが「字が読めるようになったから」といって、読み聞かせをやめていませんか。

文字を読めても、おはなしを楽しめるとは限りません。

また、ひとりで本が読めるようになっても、おはなしを聞くよろこびは別のものです。小学生には小学生の読み聞かせの楽しさがあります。

「昔ばなし」の読み聞かせ

昔ばなしは、ことばで語り伝えられてきたおはなしですので、読み聞かせに向いています。

先人の知恵がつまったおはなしを聞くことを通じていろいろな体験をすることは、子どもの成長につながります。

読み聞かせがはぐくむもの

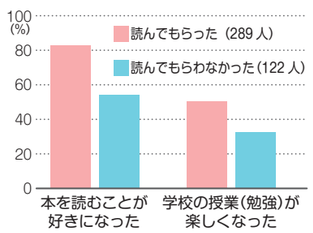
小学校入学以前に家庭で読み聞かせをしてもらった子どもは、読んでもらわなかった子どもより、小学校２年時に、読書に対する興味は約 30 ポイント、学校の授業の楽しさで約 20 ポイント高かったという調査結果※1 がありました。

また、「平成 22 年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）」の調査結果によると、読書が好きな児童生徒の方が、小学校でも中学校でも国語と算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られました。

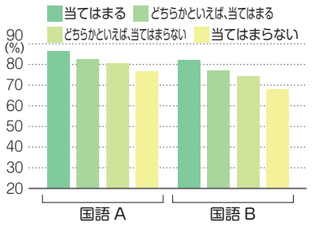
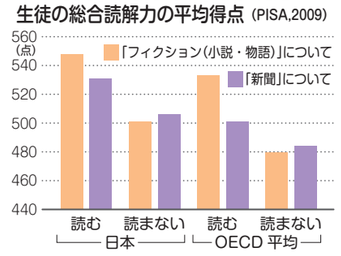
さらに、世界 65 の国・地域の 15 歳を対象に OECD（経済開発協力機構）が実施した「生徒の学習到達度調査（PISA：ピザ）」の 2009 年調査結果によると、フィクション（小説・物語など）や新聞を読む生徒の方が、読まない生徒より、総合読解力の平均得点が高いことがわかりました※2。

※1「子ども読書活動推進に関する評価・分析事業報告書」2010 年 3 月 財団法人 文字・活字文化推進機構
※2「読む」は「月に数回」「週に数回」と回答した生徒で、「読まない」は「まったくか、ほとんどない」「年に２～３回」「月に１回ぐらい」と回答した生徒。

小学校入学以前の読み聞かせ経験（小学校２年）



「読書は好きですか」への回答と国語の平均正答率（平成 22 年度全国学力・学習状況調査：小学校）



「読む」、「読まない」別に見た生徒の総合読解力の平均得点（PISA,2009）